



小学校時代「落ちこぼれ」だったという桑田真澄さんが熱弁

僕は夢をあきらめない 裏の努力が幸運を呼び込む

2月20日の午後1時30分からスタートした桑田真澄さんによるふれあい講演会。会場を埋め尽くした来場者たちは、その一言一言に真剣に耳を傾けました。文化会館ホールで開催された、講演のもようをレポートします。



桑田さんは講演の中で、成功するために実力以外に幸運やツキも必要。そしてこれらは、裏の努力を続けることで貯蓄できると語りました。

「努力には表の努力と裏の努力があります。表の努力は野球でいうと体力作りや打球・打撃練習といった上手になるための努力。裏の努力とは、トイレ掃除、雑草取り、ゴミ拾いやあいさつといった努力のこと。裏の努力を積み重ねることで、幸運やツキを貯蓄できるんです。」

特待生として入学したPL学園では、清原和博さんなど超高校級の選手に囲まれ「僕は体が小さいから、投げては投げても打たれてしまう」と、コンプレックスを抱え、挫折感を味わったそうです。自信をなくし「転校したい」と母に相談したところ「あきらめてはいけません。人生は何が起るかわからない。誰にも結末は分からないのだから絶対にあきらめてはいけません」と説得されました。そして、それまで以上に裏の努力を続けたそうです。

元プロ野球選手
桑田真澄さん
講演中、クイズを出題して会場を和ませる桑田さん。話術も超一流だ。来場者へのサイン色紙プレゼントやユニフォーム姿の子どもを舞台上がってもらおうなど、真剣な中にもユーモアがあふれ、会場は終始笑顔に満ちていた。



NPO法人を立ち上げたい人へのアドバイス

NPOの活動は「4K」 まちの元気を創り出す一歩

NPO団体を立ち上げたいと思っているが細かいことが全然分からない。法人化って手続きが難しそう。立ち上げたあと、運営していくのが大変そう…。そもそも、NPOって何だ？ そんな疑問に答える講座を開きました。



NPOについて知識を深めるための「NPO出前講座・出張相談」は2月22日、本庁会議室で開かれ、講師に県NPO法人設立アドバイザー良知トヨさんを招いて、制度の概要や手続きなどを学びました。

NPOとは、ノン・プロフィット・オーガニゼーションという言葉の頭文字。一般的には「民間非営利組織」と訳されます。株式会社などとは異なり、継続的に社会貢献活動をする非営利の組織のことです。

県内のNPO設立状況を把握したいと考えた良知さんは2002年、知り合いと共に独自調査に踏み切りました。「当時はまだ制度の認知度が低かった時代。活動していた団体数は約230ほどでした。それが現在では、約900団体にまで増加。活動の輪が広がっています。」

「旧蒲原町は、人口1万3千人に対し、15ものNPOがあり、団体同士が自主的に連携して広報活動など展開しています。NPOは、組織内の結びつきは強いものの、他の団体との連携は意外と難しい。この旧蒲原町の取り組みは、一つの参考となる」

「旧蒲原町は、人口1万3千人に対し、15ものNPOがあり、団体同士が自主的に連携して広報活動など展開しています。NPOは、組織内の結びつきは強いものの、他の団体との連携は意外と難しい。この旧蒲原町の取り組みは、一つの参考となる」

地方分権、住民自治の重要性が認知されつつあるこの時代。NPOには大きな可能性がある」と、良知さんは声を大にします。「NPOは、まちづくりへのきっかけ。と同時に、充実した生活を送ることもつながります。わたし自身、地域の人たちと触れ合う中で教えられることがたくさんあります。この充実感NPOに参加したからこそ。わたしはあるお年寄りに、『活動が大変なのになぜ続けるの？』と尋ねたことがあります。するとその人は、NPOの活動は『4K』だと話しました。好奇心を持って、行動すると、感動が生まれ、継続できる、というのです。」



約10年前、旧大井川町の主婦らが団体を立ち上げる際に手伝ったのがきっかけでNPOの世界に。現在は、焼津市でNPO「小さな家」に参加。県委託のアドバイザーとしても活躍。気軽に相談して欲しいと良知さんは話している。

県NPO法人設立アドバイザー
良知トヨさん